

平成 28 年度 夢・未来 たからづか創生総合戦略 外部有識者意見【全体にかかる事項】

(1) 評価シートの記載内容について

総合評価を見ても、内容が淡々としており、地方創生の取組としてのコンセプトが見えない。総合戦略と総合計画の評価が同じであってはならず、総合戦略では、メリハリのついた、とんがった施策をいかに効果的に打って出ているかということの評価が必要ではないか。宝塚市独自のアピールできる戦略が必要である。総合評価には、PRしたいことや課題と考えていることを中心に記載してもらいたい。また、来年度は、今回と同じ報告書を書くのではなく、今回、記載されている積み残しに対し、どれだけがんばったのかという視点で記載をしてもらいたい。

基本目標の全体評価では、施策関連携や広報（プロモーション）の取組と成果を記載してもらいたい。

(2) 検証分析について

全般的に、検証分析が十分できていない。検証分析するためには、市民や参加者の意見を聞く必要があるが、十分吸い上げられていないと感じる。効果測定をしっかりとる必要がある。効果測定することで、施策のメリハリがつけられ、次の手が打てる。

(3) 地方創生の推進に向けたプロモーションについて

宝塚市はPRがヘタという意見が毎回出る。広報のトレンドを常に意識しながら、やっている成果を、対外的にアピールし、輪を広げていくことが重要である。成果を出している自治体は、おもしろいPRを行っている。分かりやすいキャッチコピーや市内で活躍している人の紹介等により、魅力を伝えることが大切である。それは、シティプロモーション事業として取り組むだけではなく、すべての施策でシティプロモーションを意識して取り組まないといけない。

(4) 人材育成、機構改革について

地方創生の推進に向けては、人材育成や機構改革も重要である。生駒市は、全体的な戦略として、独自の施策を打とうという雰囲気化市役所全体にあり、政策、財政の担当もそれを認める雰囲気がある。若手の自主研究会もいくつか立ち上がっており、情報交換しながら、新しいプロジェクトを提案し、提案者がリーダーとなって取り組んでいく。場合によっては、プロジェクトを進めるため、リーダーを人事異動させる。

尼崎市では、若手職員がSNSを活用し、職員同士で情報交換を行っており、新しい発想で情報発信している。

(5) 有識者意見の活用について

有識者会議で出した意見が、どれほど採用されているかが気になる。意見を参考にさせていただき、地方創生が少しずつでも前に進むことを期待している。